

内視鏡的治療の解説

ERCP / EMR / ESD をわかりやすく

ERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影）

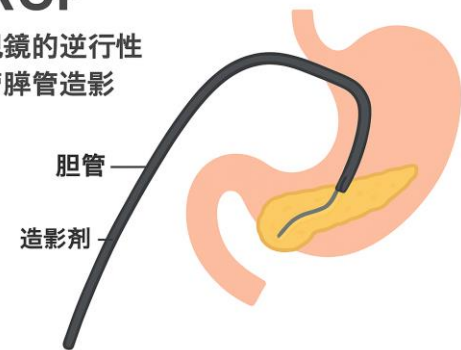
胆管や膵管の病気を調べるために、内視鏡を十二指腸まで挿入し、造影剤を注入してX線で観察する検査。

特徴：

- ・ 胆石や腫瘍による閉塞の確認
- ・ 必要に応じて治療（ステント留置など）も可能

ERCP

内視鏡的逆行性
胆管膵管造影

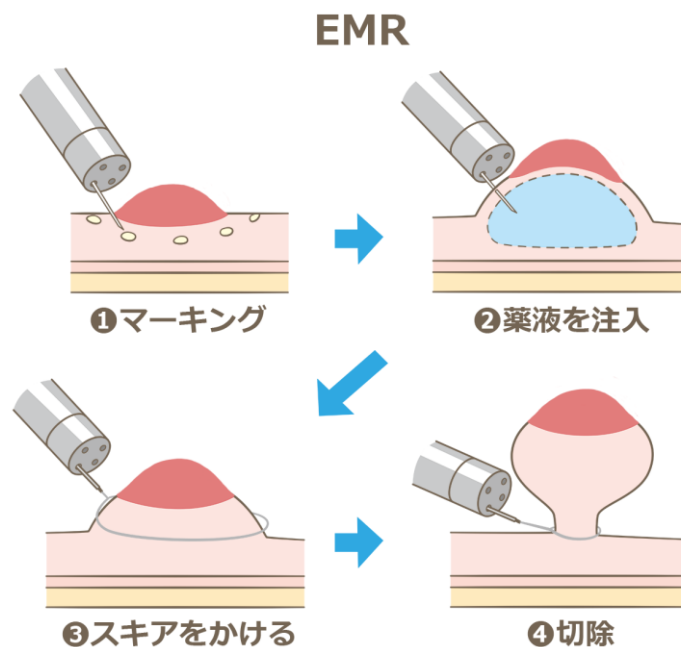


EMR（内視鏡的粘膜切除術）

消化管粘膜にできた早期の腫瘍を切除する治療法。

特徴：

- ・ 小さな病変が対象
- ・ 粘膜下に液体を注入して病変を浮かせて切除
- ・ 比較的短時間で安全に行える

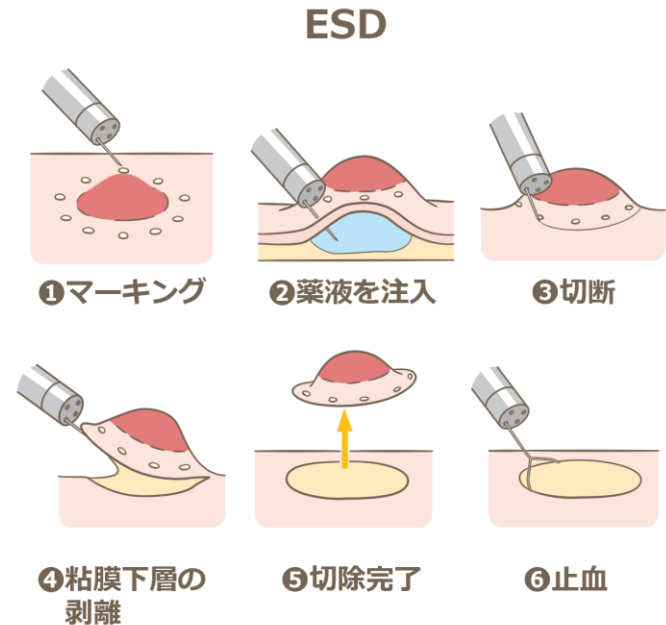


ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）

より大きな腫瘍や広い病変を、一括で切除するための高度な治療法。

特徴：

- ・ 特殊なナイフで粘膜下層を少しずつ剥離
- ・ EMRでは困難な大きな病変も切除可能
- ・ 技術的に難易度が高いが根治性が高い



まとめ

- ERCP：胆管や膵管の検査・治療（ステント留置など）
- EMR：小さな腫瘍を切除
- ESD：大きな腫瘍を一括切除

▶ すべて“お腹を切らずに内視鏡で行える低侵襲治療”